

ミニ・ラグビー ルール問題（４）

○ 正解 × 不正解 △ どちらでもある

I. タックル

1. タックルされたプレーヤーの片膝または両膝が地面につけば“倒されたもの”とみなし、タックルは成立する。

判定 ○ × △

罰則

2. タックラーは直ちにタックルされたプレーヤーを離さなければならない。

判定 ○ × △

罰則

3. タックラーはタックルされたプレーヤーとボールから離れなければならない。

判定 ○ × △

罰則

4. タックルされたプレーヤーは直ちにボールがプレーできるようにしなければならない。他のプレーヤーがおおいかぶさっている場合はやむをえない。

判定 ○ × △

罰則

5. タックルされたプレーヤーがボールを地面に置こうとする行為を妨げてはならない。

判定 ○ × △

罰則

6. ゴールライン付近でタックルされたプレーヤーは、直ちに手を伸ばし、ゴールライン内にグラウンディングすることでトライをすることができる。

判定 ○ × △

罰則

7. タックルが発生したときには、タックルドゲートが形成される。
このゲートの幅は約1メートルである。

判定 ○ × △

罰則

8. 上記ゲートには斜め後ろ，直後ろからでなければ入ってはいけない。

判定 ○ × △

罰則

II. ラック

1. ラックは双方の1人以上，またはそれ以上のプレーヤーが集まって地上にあるボールを奪いあうことをいう。その場合，各プレーヤーは立っていなければならず，かつ体を密着させてなければならない。

判定 ○ × △

罰則

2. ラックに参加している条件として，味方プレーヤーに手をかけていなければならない。

判定 ○ × △

罰則

3. ラックの中にあるボールを手でプレーしてはいけない。

判定 ○ × △

罰則

4. ラックの解除はラックの後方にいるプレーヤーがボールに触ったときである。

判定 ○ × △

罰則

5. ラック内にあるボールを足で拾い上げるのは反則ではない。

判定 ○ × △

罰則

6. ラックのなかで横たわっているプレーヤーはボールから離れようと努めなくてはならない。頭を抱えて寝ている状態は反則である。

判定 ○ × △

罰則

7. ラックのオフサイドラインは、組みあっているお互いのチームの最後方の足の後ろである。ラックのサイドで立っているプレーヤーは“フローター”であり、この位置から相手に働きかけてはいけない。

判定 ○ × △

罰則

8. ラックがゴールラインを越えたとき、オフサイドラインはゴールラインとなる。

判定 ○ × △

罰則

9. ボールがアンプレアブルとなり、スクラムを命じられたとき、直前に前進していた側がボールを入れる。

判定 ○ × △

罰則

10. 上記の場合、どちらも前進していなければレフリーの判断で決める。

判定 ○ × △

罰則

11. ボールがラックの中にあるのにさも出たかのようにダミプレーをしてはいけない。

判定 ○ × △

罰則

12. ラックの中で膝をついてはいけない。これは危険なプレーとみなされる。

判定 ○ × △

罰則